

〔續日本紀聖武〕天平二十一年七月甲午略○中皇太子謙○孝受禪即位於大極殿

〔神皇正統記孝謙〕孝謙天皇は、聖武の御子、御母は皇后光明子、淡海公不比等の大臣のむすめなり、

聖武の皇子安積親王、世をはやくして後男子ましまさず、依て此皇女立給ひき、己丑のとし、即位

改元、平城宮にまします、

○按ズルニ、聖武天皇ノ皇子ハ、史ニ其名ヲ逸ス、安積親王トスルハ誤ナリ、

〔續史忠抄明正〕寛永六年十一月八日己丑、於土御門里○里下恐受禪、御年依爲舊主○後尾御同座、無

劔璽渡御、○中以左大臣兼退爲攝政、如元宣下云

〔玉露叢八〕御即位記

寛永七年秋九月十二日、御即位之事アリ、正明是ハ去年ノ冬、俄ニ御位ヲ第一ノ皇女ニ譲リ玉フ

事、昔奈良ノ京ニテハ數代オハセシカドモ、此平安城ニウツラセ玉ヒテ後ハ、八百年ニ餘リテタ

メシナキ御事也、此事江戶○總ニ聞召シ及バレ驚カセ玉ヒ、本朝ハ神國ニテ天照大神ノマサシ

ク姫神ニテ天津日嗣ヲ萬世マデ傳ヘ玉フトハイヘドモ、久ク稀ナル御事ドモナレバ、若シ後ノ

代ニ御外戚ノ御勢ニテ、カ、ル事モ有ケルヤラントイハレサセ玉ハン名ノ、事々シカラシ義ヲ

慮ンハカラセオハシマス、イトメデタシ、然ハアレド御脱履ノ叡慮カタクモノシ玉ヘバ、強ク諫

メサセ玉フニ及バズ、兎モ角モ叡心ノマ、ト思食ス事ニ成ヌ、

○按ズルニ、明正天皇踐祚ノコトハ、讓位篇ノ讓位出於不平ノ條ニ詳ニセリ、就テ看ルベシ、

〔知音卿記〕寶曆十二年七月廿日辛巳、今日未過刻、自兩傳奏可參御所之由示來、仍參非藏人口之處、

暫而傳奏、月番姉小路前亞相被出逢、大外記出納等同參之列座、亞相之命云、子細注切紙被示之、記

于左、

主上御不豫之處御大切ニ付、若被及御異變候ハ、直ニ親王御方○後踐祚之御沙汰可被爲、在